

平成 2 7 年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立鷺洲小学校

大阪市立鷺洲小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【児童の全体的な状況】

- ・ 明るく素直でおおらかで、課題解決に向けて、ねばり強く取り組む意欲・態度が育ち、定着しつつある。
- ・ 自分の考えや思いを、多様な方法で表現できるようになってきているが、学習がやや受け身的で、「指示待ち」の姿勢がみられ、基本的な生活習慣及び社会性の不足が感じられる面がある。

【教科に関して】

- ・ 学習規律が確立され、全国学力学習状況調査でも、国語・算数とも全国正答率を上回り無解答率も低く学習の定着度が高い。
- ・ 授業で理由が分かるように気を付けて書くようにしているという意識は高いが、根拠や理由を明確にして記述することに課題がある。
- ・ 長文を書くのが難しいと考える子どもの割合が全国に比較して高いという課題がある。今後、主旨をまとめる活動や作文指導等で課題別や習熟度別の少人数指導を取り入れて、定着度の一層の向上を図っていく。

【教員の研修】

- ・ 年間20回以上の研究授業や工夫を凝らした研究討議、教科に関する講演会等、若手教員の育成に取り組みながら、授業力アップをめざしてきた成果の一端として、子どもに「学習に対しても最後まであきらめず、やり遂げようとする意欲の育ち」が見られる。
- ・ 言語活動の充実に取り組んできた成果が現れているが、「自分の思いや考えを書く活動の工夫」「思考力・判断力・表現力を高める交流の場の工夫」に取り組んでいる本校の実践を継続し、論理的な思考力につながる言語活動の充実を今後も図っていく。
- ・ 専門家による授業を参観し学校外の「新しい知識や考え方」に接することは教員への刺激となり、教師力アップや学校力へとつながっているため、今後も継続していく。

【児童の状況に関して】

- ・ 家庭地域と連携しながら、生活指導の充実に取り組んでいる成果として、基本的な生活習慣が確立されている。
- ・ 朝食をとる、きまった時間に寝る、学校の学習はきちんとして、考える子どもが多く規範意識も高く、自尊感情は育ってきている。また、自分には良いところがないと考える子どもは、大阪市平均よりも少なく、学校での体験学習の成果は一定表れている。

【視点 学力の向上】

習熟度別授業・少人数授業等、さらなる指導法の工夫改善を行い、子どもに基礎的な学力を定着させ、「論理的思考力」や「学ぶ意欲の向上」を獲得させていきたい。その指標として、平成27年度末の子どもアンケート・保護者アンケートで「授業が楽しくわかりやすい」と答える割合をすべての学年でそれぞれ85%以上とする。

（カリキュラム改革・グローバル化改革）

【視点 道徳心・社会性の育成】

本校の学校目標「心豊かな子どもを育てる」には、互いに認め助け合い共に学び育ち合う子どもの育成、集団の育成が不可欠である。違いを認め合い育ち合う集団の育成に向けたピアサポートの活動や企業や専門家を講師として招聘した体験学習（キャリア教育）を行っているが、平成27年度にはその成果を全市に発信する。

（グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革）

【視点 健康・体力の保持増進】

体力づくり等、健康な生活習慣を身につけることができるよう、特に健全な食生活の確立に向けて食育に取り組んでいる。平成27年度、校内アンケートで、「給食を残さず食べている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えがすべての学年で85%以上にする。

（カリキュラム改革・ガバナンス改革）

【視点 研修の重点】

教員が指導法の工夫改善への取り組みを継続し、子ども一人一人が自らの可能性を伸ばすことができるような教育活動を実践すること、各分野の専門家を招聘した研修会を幼・小・中合同で実施することは、学校活性化につながる。その指標として、平成27年度は、全教員が「授業研究」をし、指導力が向上した、研修が役に立ったと実感する教員の割合を70%以上にする。

（マネジメント改革・カリキュラム改革）

【視点 学校・家庭・地域との連携】

子どもたちの健全育成に地域総がかりで取り組む。幼小、小小、小中等の異校種間連携を継続し、幼小中一貫した「学び」をめざす。関係機関との連携や地域、保護者、ボランティアの協力を得え、教育活動をさらに充実させる。この成果を地域保護者関係機関に発信し、平成27年度、校内アンケートで、「学校からの情報発信を楽しみにしている」と答える保護者の割合を70%以上にする。

（マネジメント改革・ガバナンス改革）

2 目標達成に向けた年度目標

年度目標
<p>【視点 学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度までの実践の成果を継承し、授業形態の工夫を通して個に応じた指導を徹底するとともに、「大阪市スタンダードモデル」に対応できる教育環境の整備を一層進める。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル化改革)・教育活動全体を通して「言語活動の充実」に取り組み、論理的思考力をはぐくむ。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革)
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none">・ピア・サポート活動等を活用して、互いに違いを認め育ちあう集団を育てる。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)・地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に取り組み、豊かな心を育成する。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)・地域社会の一員として行動できる自主的・自律的な態度を育成する。 (カリキュラム改革・グローバル化改革)
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <ul style="list-style-type: none">・自らの健康に関心をもつ子どもを育てるために、保健・食育・体育の年間計画に則り、実践を進める。 (カリキュラム改革・マネジメント改革)
<p>【視点 研修の重点】</p> <ul style="list-style-type: none">・校内研修を活性化し、外部講師の招へいや、各教科・領域の主任が講師となった校内研修を行うことで教職員の授業力をアップする。 (マネジメント改革・カリキュラム改革)・市内はもとより、先進的に研究実践に取り組む学校園への積極的な参加も含め、多様な研修の機会を設定することで研修の機会を増やす。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革)
<p>【視点 学校・家庭・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none">・ホームページや学校だより、学年便りなどを通して、学校の教育活動について積極的な情報発信を行う。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革)・保幼小中の校種間連携を継続し、保幼小中一貫した「学び」を推進する。 (ガバナンス改革・カリキュラム改革)・次世代を創造する鷺洲の子どもの育成について、これまで進めてきた学校運営計画を総括する。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革)

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの実践の成果を継承し、授業形態の工夫を通して個に応じた指導を徹底するとともに、「大阪市スタンダードモデル」に対応できる教育環境の整備を一層進める。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル化改革) ・教育活動全体を通して「言語活動の充実」に取り組み、論理的思考力を育む。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革) 	B
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポート活動等を活用して、互いに違いを認め育ちあう集団を育てる。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革) ・地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に取り組み、豊かな心を育成する。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革) ・地域社会の一員として行動できる自主的・自律的な態度を育成する。 (カリキュラム改革・グローバル化改革) 	B
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康に関心をもつ子どもを育てるために、保健・食育・体育の年間計画に則り、実践を進める。 (カリキュラム改革・マネジメント改革) 	B
<p>【視点 研修の重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を活性化し、外部講師の招へいや、各教科・領域の主任が講師となった校内研修を行うことで教職員の授業力をアップする。 (マネジメント改革・カリキュラム改革) ・市内はもとより、先進的に研究実践に取り組む学校園への積極的な参加も含め、多様な研修の機会を設定することで研修の機会を増やす。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革) 	B
<p>【視点 学校・家庭・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だより、学年便りなどを通して、学校の教育活動について積極的な情報発信を行う。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革) ・保幼小中の校種間連携を継続し、保幼小中一貫した「学び」を推進する。 (ガバナンス改革・カリキュラム改革) ・次世代を生きる鷺洲の子どもの育成について、これまで進めてきた学校運営計画を総括する。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革) 	B

大阪市立鷺洲小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ・昨年度までの実践の成果を継承し、授業形態の工夫を通して個に応じた指導を徹底するとともに、「大阪市スタンダードモデル」に対応できる教育環境の整備を一層進める。 （マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル化改革） ・教育活動全体を通して「言語活動の充実」に取り組み、論理的思考力を育む。 （マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【学力向上・個に応じた指導】 昨年度までの実践の成果を継承し、授業形態の工夫を通して個に応じた指導を徹底するとともに、「大阪市スタンダードモデル」に対応できる教育環境の整備を一層進める。 （マネジメント改革・カリキュラム改革・グローバル化改革）	B
指標 27年度末の子どもアンケート・保護者アンケートにおける「授業が楽しくわかりやすい」と答える割合をそれぞれ70%以上とする。	
取組内容②【言語活動の充実・論理的思考力の育成】 教科の特性や、子どもの発達段階に応じて ICT や思考ツールを取り入れることにより、言語活動を一層活性化させる。 （マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革）	B
指標 全国学力学習状況調査や学校アンケートで、「話し合い活動を活発に行った」「自分の考えを発表できた」と答える子どもの割合を70%以上にする。	
取組内容③【学校図書館の活性化】 学校図書館の開館時間を増やし、読書に親しむ子どもを増やす。 （マネジメント改革・カリキュラム改革・ガバナンス改革）	B
指標 全国学力学習状況調査や学校アンケートの中で「読書が好き」と答える割合を全国平均以上にする。	

取組の進捗状況の結果と分析
① 児童の実態や学習内容に応じて、習熟度別少人数授業を行い、基礎的な事項の習得を図った。指導に際しては体験的な活動を取り入れたり、個に応じた支援の仕方を工夫したりしたので、授業が楽しくわかりやすいものになった。
② タブレットPC、電子黒板、デジタル教科書などのICTや思考ツールを取り入れることで、情報の共有化やコミュニケーションの高まりが見られた。しかし、児童が互いの意見や考え方の共通点・相違点から学び合い、教え合うためには、指導者がツールの特性を熟知し、十分に使いこなしていく必要がある。
③ 低学年の読み聞かせや図書館支援員による働きかけ、調べ学習における公共の図書館からの図書の借り入れ等を行った結果、読書が好きと答える子どもが増加した。 しかし、高学年の本が好きと答える割合は低学年に比べ、低い傾向にあるので指導の改善が望まれる。

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>・ピアサポート活動等を活用して、互いに違いを認め育ちあう集団を育てる。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)</p> <p>・地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に取り組み、豊かな心を育成する。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)</p> <p>・地域社会の一員として行動できる自主的・自律的な態度を育成する。 (カリキュラム改革・グローバル化改革)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【人権を尊重する教育の推進】</p> <p>違いを認め育ちあう集団の育成に向け、年間を通してピアサポートの活動を位置づけ、計画的に実施する。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)</p> <p>指標 学校アンケートで「自分にはよいところがある」「どの友達にもよいところがある」と答える子どもの割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【豊かな心を育む教育活動の推進】</p> <p>地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に全学年で取り組む。 (グローバル化改革・カリキュラム改革・マネジメント改革)</p> <p>指標 各学年で地域を活用した教育活動を進め、「鷺洲の町（福島区）が好き」と答える子どもの割合を70%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③【社会性の育成】</p> <p>自主的・自律的な生活態度を身に付け、進んで挨拶できる子どもを育てる。 (カリキュラム改革・グローバル化改革)</p> <p>指標 学校アンケートにおいて、「相手より先に挨拶している（自分から挨拶している）」「相手に伝わるように挨拶している」との答える割合を70%以上にする。</p>	B

取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 全学年で年間指導計画を立て、互いを認め合う集団作りや異校種間・異学年交流に取り組んできた。活躍の場を設定し、たくさんの仲間との触れ合う機会を持つことで、支え合いの大切さを知ることができた。これらの活動を通して、自己肯定感を持ち、友だちの良さに気づけた児童は目標を上回った。</p> <p>② 各学年に応じて、生活科・総合的な時間を使い、鷺洲の財産である「ひと・もの・こと」を活用した体験的な学習に取り組んできた。地域の多くの方に協力をいただき、触れ合い・学びの場を通して、94%の児童が「鷺洲の町が好き」と回答した。</p> <p>③ 登校指導・全校朝会・月目標の掲示など、学校生活のあらゆる場を通して挨拶をする気持ちよさを伝えてきた。その結果、児童の88%が自ら進んで挨拶をしていると回答したが、保護者は67%にとどまっている。その差については、児童と保護者の意識のズレが出ているようにみられる。</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>自己肯定感が育つような取り組みや場の設定を持ち、継続的に指導していく。</p> <p>本年度の取り組みの反省を生かした次年度への内容検討を行う。</p> <p>気持ちが伝わるような挨拶ができるよう継続的に指導していく。</p>

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ・自らの健康に関心をもつ子どもを育てるために、保健・食育・体育の年間計画に則り、実践を進める。 (カリキュラム改革・マネジメント改革)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【食育の推進】 栄養教員による指導を実施するとともに、「食」について考える取り組みを進める。 (カリキュラム改革・マネジメント改革)	A
指標 平成26年度の校内アンケートで、「給食を残さず食べている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えが85%以上にする。	
取組内容②【健康に関する現代的課題への対応】 清潔検査を週1回実施し、学期に一度その結果を全校子どもに発表する。 感染症予防に対する意識を向上させる。 (カリキュラム改革・マネジメント改革)	B
指標 平成27年度校内アンケートで、給食前に「手洗い・うがいを必ず行っている」を「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」との答えを80%以上にする。	
取組内容③【子どもの体力向上への支援】 平成27年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査を全学年で実施するとともに、体育的行事や運動遊びを計画的に実施する。 (カリキュラム改革・マネジメント改革)	B
指標 学校アンケートの「運動するのが楽しいか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える子どもの割合を80%以上にする。	

取組の進捗状況の結果と分析
①給食時、苦手な食べ物は事前に減らし、少ない量でも残さず食べられるよう工夫したり、それを完食することができ喜びが自信につながるよう支援したりした。その結果、ほとんどの子供が、苦手な食べ物にも挑戦して残さず食べられるようになり、食べる量も少しずつ増えてきた。 また、食事の準備、後片付け等安全衛生面にも気をつけ、給食を安心してしっかり食べられるよう配慮した。
②「うがいの大切さ」について日々繰り返し話したり声掛けしたりすることで、うがいへの意識を高めしっかりうがいをするよう指導した。また、保健委員会児童により「うがい人形模型」を使って、のどについた菌の取れ方を示したり、のどの奥まで水がいきわたるうがい法「まほううがい」を指導したりして、効率の良いうがいの必要性を指導した。少しずつではあるが定着しつつある半面、手洗いほど十分に行われているとは言いがたい。今後も、感染症予防の一環として、手洗いとうがいをセットにして考え実行できるよう、繰り返し声掛けが必要である。
③各学年に応じた運動能力や運動習慣等を考慮し、全学年でかけ足タイムやなわとび朝会等の体育的行事や運動遊びを計画的に実施した結果、運動に親しみ、運動するのが楽しいと答える児童が増えた。しかし、外に出にくい児童や出られない児童も少なからずいるため、繰り返し声をかけたり、一緒に校内を散策、話をする、本を読むなどしてリラックスタイムをとったりした。指標は80%以上となっている。 今後も、体育的行事や運動遊びにつながるような運動や遊びを工夫していく。

年度目標	達成状況
【視点 研修の重点】 ・校内研修を活性化し、外部講師の招へいや、各教科・領域の主任が講師となった校内研修を行うことで教職員の授業力をアップする。 (マネジメント改革・カリキュラム改革) ・市内はもとより、先進的に研究実践に取り組む学校園への積極的な参加も含め、多様な研修の機会を設定することで研修の機会を増やす。 (マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【授業研究会の充実】 全教員による研究授業を実施するとともに、研究の充実のため、外部講師を招へいして授業力を向上させる。 <div>(マネジメント改革・カリキュラム改革)</div>		A
指標 教員の70%が、「自分自身の指導力向上に役立った」と答える研究活動を行うために、平成27年度は全員研究授業と、外部講師から指導を仰ぐ機会を複数回設ける。		
取組内容②【校内研修の充実】 各教科・領域の主任が講師となって校内研修を充実させる。 <div>(マネジメント改革・カリキュラム改革)</div>		B
指標 教員の80%が「研修を通して指導力の向上が図られた」と答えられる研修を実施する。		
取組内容③【教育実践のイノベーションにつながる研究の推進】 先進的な教育実践に取り組む学校園への視察等、多様な研修の機会を設定する。 <div>(マネジメント改革・カリキュラム改革・学校サポート改革)</div>		B
指標 教員の70%が「自身の指導方法の改善につながった」と実感できるよう、優れた教育実践に触れる機会を増やすとともに、その成果を校内で伝達し学校全体の指導力アップにつなげる。		
取組の進捗状況の結果と分析		
<p>① 全員研究授業27回、外部講師から指導を仰ぐ授業を7回実施した。思考ツールを使うことを通して思考スキルを考えることができ、「自分自身の指導力向上に役立った」とほぼ全員の教員が答えた。</p> <p>② 校内研修を充実させるために若手教員を中心に、各教科、領域の主任による研修を行った。</p> <p>③ 他校の授業や研修会に積極的に参加し、優れた教育実践に触れる機会を増やすことができた。</p> <p>【次年度の課題】 自身の指導方法の改善につなげるために、さらに伝達方法の工夫に努める。</p>		
年度目標		達成状況

<p>【視点 学校・家庭・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だより、学年便りなどを通して、学校の教育活動について積極的な情報発信を行う。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革) ・保幼小中の校種間連携を継続し、保幼小中一貫した「学び」を推進する。 (ガバナンス改革・カリキュラム改革) ・次世代を生きる鷺洲の子どもの育成について、これまで進めてきた学校運営計画を総括する。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革) 	B
--	----------

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【開かれた学校運営】</p> <p>各学年月1回以上HPに子どもの様子をアップするとともに、学校便りや学年便り等を通して積極的な情報発信を心がける。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革)</p> <p>指標 平成27年度の学校アンケートで、「学校からの情報発信を楽しみにしている」と答える保護者の割合を70%以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【小中一貫した教育の推進、幼児教育の充実】</p> <p>隣接する幼稚園・中学校との連携を中心に年間通して計画的に交流学习を進める。 (ガバナンス改革・カリキュラム改革)</p> <p>指標 学校行や研究活動への相互参加を通して、校種間連携について考える機会を計画的に設け、「他校種への理解が深まった」と答える教職員の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【次世代を生きる子どもの育成】</p> <p>3年間の学校運営改革の中で進めてきた教育活動を総括し、次世代を生きる鷺洲の子どもの育成を目指して本校の教育課程、内容についてブラッシュアップする。 (ガバナンス改革・学校サポート改革・マネジメント改革)</p> <p>指標 これまで3年間の学校運営改革を振り返るとともに、多様化した教育活動を位置づけ・関連付けてブラッシュアップを図り、次につながる計画を年度末に立案する。</p>	B

取組の進捗状況の結果と分析
<p>①HPのアップにより、学校の取り組みや子どもたちの様子をこまめに伝えてきたが、アンケートの結果では閲覧している保護者の割合が低かった。内容にさらに変化をもたせたり、啓発したりすることで関心を高めてもらえるようにしていく必要がある。年度後半には、各学年からのアップも少しずつではあるができてきた。リニューアルした学校便りでは、より多くの記事・情報を提供し、学年便りと併せて、保護者・地域と情報の共有を図ることができた。</p> <p>②「町たんけん」で児童が中学校を訪問したり、中学校教員の出前授業を受けたりするなど、小中連携を進めてきた。健全育成協議会の取り組みにおいても連携を図ることができた。保・幼・小連携では、連携会議をもち、これまでの取り組みの洗い出しと今後の方向性について共通理解を図った。そのうえで、小学校の教員が幼稚園の作品展を見学したり、保・幼の教員が小学校の給食の様子を参観したりする取り組みを実施した。アンケートからも、教員の他校種への理解は進んできたといえる。今後も連携会議等によりスタートカリキュラムを整備し、効果的な取り組みを実施していく必要がある。</p> <p>③これまでの教育内容を見直し、効果的な教育活動を進めるため、各学年で実施してきた出前授業等体験活動の精選・削減を図り、次年度以降の教育活動の方向性を検討してきた。「次世代を生きる鷺洲の子ども」の姿や「多様化した教育活動の位置付け・関連付け」について今後も議論を重ねながら、シンプルで効果的なカリキュラムを構築していく。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>①本校の教育内容をより理解し、活動に協力してもらうことを念頭に置き、情報発信を継続していく。</p> <p>②小中連携、保幼小連携を効果的にすすめるために、職員間の連携を活性化させる。 ③中長期的視野に立ったカリキュラムを構築していく。</p>